

平成 20 年度築理会総会懇親会報告

20 年度築理会総会懇親会運営委員長
渡辺 一男 (I 部 1972 年卒)
大林組東京本社東京建築事業部

今年も恒例の総会・懇親会が、築理会会長をはじめ多くの運営委員の方々のご協力の下、神楽坂校舎 17 階の会議室、講堂を利用させていただき 5 月 24 日 (土) 盛大に開催されました。

参加者はご来賓、手伝いの現役学生さんを含めて 100 名ほどの会となりました。今回は理大神楽坂新校舎の建設開始を祝し、OB の皆様の旧交を温めていただくことと、会に出席いただいた皆様が十分に楽しんで頂ける事を目的として、色々な工夫を凝らした会を運営委員一同の努力により開催することが出来ました。

総会の後、懇親会の開催に先立ち本年度理科大を退官される大岩氏により「チベット建築～周辺諸国からの影響とその独自性」というテーマにて講演会が実施されました。大岩氏ご自身によるチベット建築の探訪談や様々な考察を取り入れた大変有意義な内容で参加者の評判も非常に良いものでした。

懇親会は開会の言葉に続き理大塚本理事長、竹内学長のご挨拶から始まり、来賓の方々のご挨拶と続き昭和 27 年理学部化学科卒の西村氏による今年 3 月に竣工した「理科大発祥の地記念碑」建立にまつわる四方山話なども拝聴させていただきました。ちなみにこの記念碑建立にあたってはそのデザイン、製作、施工に当築理会が大いに協力し大学側から大変感謝されたものです。

会も中盤に差し掛かり懇談も大いに盛り上がっていると今度のメインの催物として、理科大出身の歌手 2 名によるライブがありました。それぞれライブなどで活躍されている様子さんとタカミさんです。これには OB の方々も大変満足している様子でした。



様子さん

最後に全員で校歌を斉唱し、記念写真を撮影してお開きとしました。

会の運営に当たっては様々な問題点を運営委員の皆様と半年くらいかけて会合をもち、開催日、場所、参加者の募集方法とその実践方法、催物、料理等々試行錯誤を繰り返しながら討

議し、開催へとつなげてまいりました。委員長である私の到らなきの故ご不審やご迷惑をお掛けしたことをお詫びするとともに皆様のご協力のおかげで大成功であったことに感謝申し上げます。

終わりに築理会懇親会は築理会の年会費未納でもどなたでも参加できますので特にまだ一度も出られていない方、二部ご出身の方、女性の方も是非多数ご参加くださいますようお願いいたします。

なお、活動予定や次年度の開催日などは築理会のホームページに掲載いたしますので参加ご希望の方は是非ご一読ください。



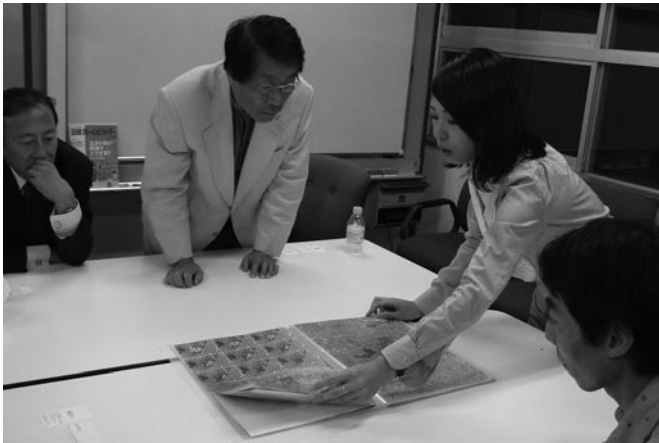
タカミさん



Special cross talk

築理会「新旧座談会」

築理会報 2008 年秋号の特集は、建築学科の創世記を経験してきたベテランOBと、今春に学部を卒業したばかりの若手との「新旧クロス対談」。2007 年の築理会賞を受賞した野村奈菜子さん、宮嶋晋一さんの二人と 1 期の中村弘道さん、5 期の石橋利彦さんにお集まりいただいた。コーディネーターは 14 期の佐野吉彦さんをお願いした。さて、どんな話が飛び出すか？



佐野 今日は先輩と若い皆さん、新旧の間で建築への共通の思いや、これからの理科大がどうなっていくのかなど、できれば明るい展望で話を進めていきたいと思えます。まず年の順ということで中村さんに、理科大建築学科創設期の雰囲気も含めて話をお聞きします。



佐野さん

中村 私はいわゆる「一期生」。校舎もできたばかりの時期に入学しました。当時は研究室も整っていない状況で、学生は意匠系より技術系のほうが圧倒的に多かった。私は意匠系を目指したのですが、誰も相談にもつてくれないし、面倒見もよくなかった。ですが、これは結果として悪くない環境だったのだと思います。

1966 年に卒業して佐藤武夫建築設計事務所に入りました。その後、大高建築設計事務所を経て、1971 年に丹下健三・都市・建築設計研究所に移り、結局は 16 年間いました。そして独立して現在に至ります。



中村さん

佐野 まさにフロンティア世代ですね。当時の雰囲気も伝わってきます。次に 5 期の石橋さん。このころは各学年もそろい、だいぶ状況も変わってきましたか？

石橋 そうですね。普通の大学に入った感じでした。大学の形は整っていたのだけれど、まだまだ産業界には OB もいない。私は大学院に進学したのですが、修士の 1 年目は建築用語辞典の執筆の手伝いをして、文学部みたいな感じでした。



石橋さん

1972 年に卒業して大成建設に 13 年間いました。最初から独立するつもりではなかったのですが、ちょうど上司が皆、いなくなるタイミングがあってその機会に独立しました。1985 年に独立して、24 年になります。これまでに 109 のプロジェクトを手がけてきましたが、どれも無くてはならない仕事でした。また、工学部と理工学部の講師を担当しており、母校とのつながりはあります。

中村 私も工学部で 3 年くらい教えた。任期は 3 年ですよと言われて…

佐野 中村さんも最初から、ゆくゆくは自分で事務所を開こうと思っていたのですか？

中村 学生のころなんて、先のビジョンなんてありませんよ。そこでガーっとやるのがいい。計画的に人生を考えるタイプのほうが成功するかもしれないけど、僕はそういうタイプではなかった。ビジョンなく、行き当たりばったりというか…

佐野 なるほど。では、若い世代の話を聞きましょうか。年の順ということで、宮嶋さん、そして野村さんという順で自己紹介をお願いします。

宮嶋 二部を今年の春に卒業しました。実は理科大に入学する前に文学部を出て、コンピューターの SE を 4 年ほどやっていました。それが性に合わなくて、このままでいいのかな？と悩んだ結果、理科大建築学科の二部に編入しました。今はリフォームの工務店で現場監督の仕事をしています。



宮嶋さん

佐野 なぜ建築を？

宮嶋 一言でいうと「血が騒いだ」ということになると思います。実家が工務店なので、住宅を建てる、顧客のイメージを形にするのはいいなあと。

佐野 では野村さんに自己紹介をしてもらいましょう。

野村 今年の3月に学部を卒業して今は一部宇野研究室の修士課程です。宇野先生はいろいろと体制を変えようとして、カリキュラムや授業でも新しいことに取り組んでいます。



野村さん

今、私が取り組んでいるのも椅子づくりで、カーボンファイバー製の椅子を講師で来てくださっているヨコミゾマコトさんの指導でつくっています。日本建築学会のアーキニアリング・デザイン展に出展しようと準備を進めています。

佐野 お二人とも卒業制作の作品を持ってきてくださっているんですね。ちょっと見せてもらっていいですか。まず宮嶋さん。これは緑化ビルですか？

宮嶋 農業ビルディングです。そしてこちらがプレゼンボード。理科大のある場所を敷地にした都市の中の立体農場。自分でつくった枝豆でビールを飲むというコンセプトです。印象に残っているのはこの卒業制作のプレゼンの瞬間ですね。講評で、評価が真っ二つに割れました。評価してくれた人とダメだという人に……

中村 この農場の下が大学だったらおもしろいね。あるいは既存ビルのリノベーションとか。

佐野 えてして、すぐれたものほど、評価が割れるものですよ。ベートーベンも当時は評価する人と評価しないという人に分かれた。野村さんは？

野村 私の卒業制作はこちらです。「時間を積む」というテーマで、廃墟の敷地に本を積んでいく。国会図書館に入庫する本を一日に一列、積んでいくプログラムです。そうするとこの敷地は500年分のクオリティーをもっている。データ化されても本は大切であるということ、朽ちていくものも美しいということも表現しています。

佐野 最近の学校の風を伝えてくれるようですね。中村さん、どうですか？

中村 センスもまとめ方も、ぼくらの時代とは違うよね。CADによって表現力が圧倒的に増した。そして形よりも考え方やシステムの提案になっている。最近理科大出身の建築家も増えていて、活躍も目に付く。うれしいことだよ。

佐野 私が大学にいたころは、構造の先生たちが自信に満ちている印象でしたが、今は例えば野村さんが所属する宇野先生は意欲的に理科大の建築教育を変えようとしているし、宮嶋さんの山名先生も若いOBとして理科大を変えていこうとしていますよね。野村さんも宮嶋さんも、そういった新しい空気の中で学んだわけですが、例えば、宮嶋さんは在学中に発見ってありました？

宮嶋 印象に残っているのは、ある講師の方から「建



<p>せんたいデザインリーグ2008 卒業設計日本一決定戦 OFFICIAL BOOK A4ワイド判・156頁／定価 1,800円(税込)</p>	<p>トウキョウ建築コレクション2008 全国修士設計・論文集 A5判・400頁／定価 2,000円(税込)</p>	<p>Design Review 2008 [学生デザインレビュー2008/ 北九州]全記録 A5判・208頁／定価 1,500円(税込)</p>	<p>建築系学生のための情報サイト</p> <p>「LUCHTA (ルфта)」とは、株式会社建築資料研究社/日建学院が企画・管理・運営する建築系学生のための情報サイトです。建築を学ぶ学生たちの卒業設計を始めとした様々な活動やイベント・コンペティション情報等、学生にとって真に必要な情報をリアルに発信しています。</p> <p>「卒業設計作品集」は、「せんたいデザインリーグ」をはじめ、全国の卒業設計展の作品が、約3,500作品、画像13,500点を掲載!!</p> <p>日建学院の建築系学生支援サイト http://www.luchta.jp/ ルфта 検索</p>
<p>日建学院コールセンター ☎ 0120-243-229 受付/AM10:00~PM5:00(土・日・祝祭日は除きます) 株式会社建築資料研究社 東京都豊島区西池袋1-15-7 株式会社建築資料研究社 日建学院</p>			

築の仕事は、どれだけ人と違うことをやってどれだけ多くの人に認められるかだ」と言われたことですね。

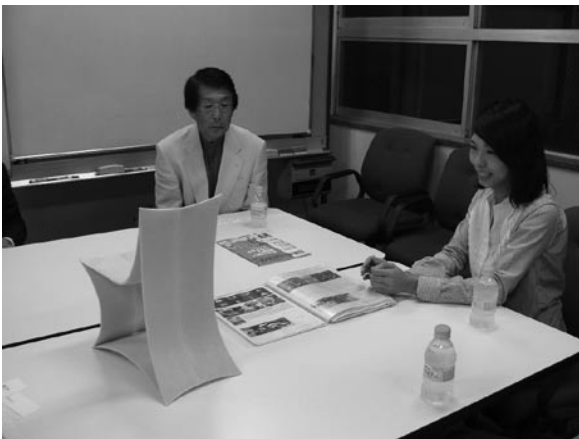
佐野 大学と仕事は同じ？それとも違いますか？

宮嶋 大学で教わったのは設計で、今、携わっているのは現場なので、そういう意味では別の道といえるかも…

石橋 大学で教わることで、社会に出て必要になることでは、テクニックとスキル、テクノロジーとエンジニアリングの違いがあると思うのですよ。学校で教えるのはテクニックであり、テクノロジー。実際に仕事でものをつくるためにはスキルとエンジニアリングが必要。スキルをもつためのテクニックを学校でしっかり学んでほしい。

佐野 野村さんの研究室ではどんな新しいことをしているのですか？変革の1年目ということですが大きく変わると感じますか？

野村 はい。今は宇野先生が率先して建築学科を引っ張っておられますが、それに伴い、学生達の姿勢や授業体制も大きく変わりはじめたような気がします。もちろん、これまでの理科大にはのんびりしつつ基礎を固める、という良さもありましたが、それとはまた違った、勢いのある新たな傾向を感じています。



佐野 授業だけでなく、昔より学外、外との交流も増えていますよね。

野村 学校でというより、個人でコンペなどに応募したり、いろいろな集まりに参加するようにはなっていますね。オープンデスクとか。

石橋 我々のころには、アイデアコンペしか外部に発信する機会がなかったですね。

中村 オープンデスクはチャンスが増えている。もう一つ、グローバルな視点から物事を見る必要があると思うよね。そういう視点を養っておく必要がある。私自身は海外の仕事ばかりをしてきて、国内の仕事は三つしか経験がない。海外の仕事では自分を売り込むしかないんです。

EUでは若い人がすごく伸びている。しかし日本はそれができていない。若い人が仕事をしてはいけないような仕組みになっていて、欧州とどんどん差が付いている。そこが問題だと思う。今後の国の隆盛にも影響が出るんじゃないかと。

佐野 お二人はどうですか…

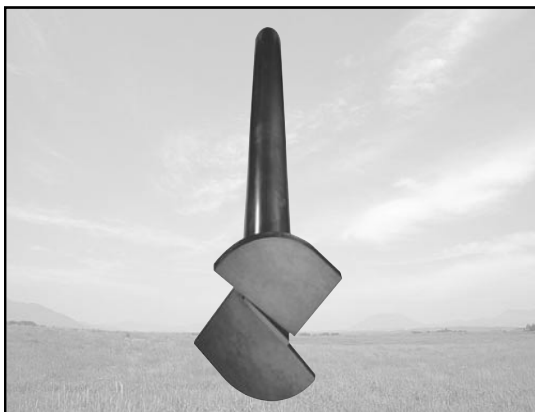
宮嶋 世界はちょっと…

野村 宇野先生からは海外のコンペも含めて、新しいことをせよと常に言われています。

佐野 建築も社会も変わってきて、今までとは違うチャンスが開ける可能性が出てきた。野村さんは近い将来、社会に出るわけですが、何をしたいですか？

野村 少し前まではアトリエ系の事務所に入って独立するという夢を持っていましたが、今、迷っているところです。

石橋 迷ったら、皆が行かないところへ行くという選択もあります。アトリエ系は希望する人が少ない、



目に見えない支える技術こそが大切だと考える。

回転圧入鋼管杭 ジー・エクス・パイル

G-ECS PILE®

<http://www.sansei-inc.co.jp>

営業品目：建築工事における基礎杭の開発・販売・施工 / 建築工事における各種杭の技術提案
※ 技術スタッフ募集中

株式会社 三誠
SANSEI INC.

本社 〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町20番3号 箱崎公園ビル7階 TEL:03-3639-5226/FAX:03-3639-8162
北関東営業所 / 茨城営業所 / 新潟営業所

(昭和48年 工学部建築学科 代表取締役 三輪富成・専務取締役 小川ひろし 他2名)

給与も少ない。と、それなら安い株を買うように逆張りもあるのではないか。

宮嶋 私は建築自体へ進むのを止められた。引き返すなら今のうちだと言われて、勇気を出して進んでいるところです。今の話を聞いて「よし、頑張ろう」と思いました。

中村 宮嶋さん、現場の喜びは？

宮嶋 手がけているのがリフォームなので、工事によって悪い所が一転して良い所になる。それで喜んでもらえるという期待感。これは大きな喜びです。

佐野 工学部の建築学科では、人の使い方は習わないけれども、実は人とのかかわりが建築の成否を決めることが多い。

中村 そう。建築は環境をつくるもの。その場所の空気やランドスケープ、それらも含めて。だから財産をつくるという観点で考えないと、ファッションになってしまう。石橋さん、どうですかね？

石橋 難しいのはクライアントとの関係だと思えますね。クライアントも満足し、社会性も満たす。周辺もよくなる。そこが医者とは違う建築家の社会性だと思います。大学では大河の最初の一滴しか教えられな



い。でもそのスタートがよくなれば、後の流れもよくなる。

佐野 数年後の自分の姿として、どんなイメージを目指したいですか？

宮嶋 友人や家族、両親には「自分の家をつくるときはよろしく頼むぞ」と言われているので、その期待に応える仕事をしっかりやりたいと思っています。

野村 私はさきほども話したようにアトリエ系にあこがれていたのですが、卒業制作などを通して都市などの大きなことを考えるのが好きだとわかってきました。だから都市開発などの仕事、あるいは組織設計事務所で大きな建築の一部をつくること。

中村 いきなり海外の設計事務所の門をたたくのもいい。たとえば中国。それで日本に戻ってきてもいいし。若い人が大きなスケールで仕事をする機会は日本ではなかなかない。血走っていかないと。若いうちにしかできないこともある。

佐野 野村さんは43期だそうですね。理科大の建築学科も40年を超える歴史をもつようになりました。「どれだけの志を持つか」「人がやらないようなことに挑戦するか」という精神が、パイオニア世代の中村さんから、野村さんまで受け継がれたのではないのでしょうか。宮嶋さん、野村さん、後に続く後輩たちにもよき影響を及ぼすように、ぜひ頑張ってください。(文責=安達功)



子どもたちに
誇れる
しごとを。

SHIMIZU CORPORATION
清水建設



築理会・事務局長をふり返って(2)

大岩 昭之(1部3期・1968年卒)

“新生築理会”も4年目になると、組織もマンネリ化してくる。平成10年の会報新年号の1ページには、“築理会活動に参加を”“会費納入のお願いと・・・”であり、秋号には“築理会はどこにゆく”が特集であった。この年、会報での情報提供の減少にたいしてかねてから検討していたホームページを開設した。しかし見学会は「集合住宅」見学会が最後となった。一般会員の参加を期待し築理会に少しでも関心を持ってもらえればと始めたが、なかなか主催者側の思っているようにはならない、難しい面もあった。新しい企画である現役学生(院生)への建築業界の説明・就職相談も兼ねた「OBと語る会」はこの年開催している。決算報告を見ると平成10年(1998)の会費収入は219万円、3年前よりも大分落ち込み、次年度への繰越金も50万円とかなり問題となる事態になっていた。

平成11年(1999)、会長も交代の年であり、野々村俊夫氏(1部1期)を新しい会長に迎えて総会・懇親会が3月理窓会館で開催した。この時会則も改定、会費を3,500円に値下げし、広く会費を集める、それに卒業30年以降の会員に終身会員制度を導入した。終身会員は会費3万円納入でその資格を得ることができるようになった。又、経費節減の意味もあって会報は年2回の発行になる。セミナーもこの年、2回開催。終身会員制導入もありこの年の会費収入が247万円あった。それと会報発行を少なくしたこともあり繰越金は年106万円残すことができた。平成12年、セミナーはこの年の21回目が最後となる。築理会名簿に関しては、信頼性をたかめるために全会員に対する名簿データの調査をおこなっている。なお名簿のデータは普段から常に訂正する必要があり、又、新会員(新卒者)の入力も必要である。これらはすべて学内で処理し田中治先生(1部11期)にお願いしている。地味な仕事であるが、築理会としては最も基礎となる仕事である。会報はこの年より「a.b.c.(Architectural bulletin of chikurikai)」とタイトル名変更。

かねてから話題になっていたが、世間では工学部建築学科卒業生も理工学部建築学科卒業生も同じ東京理科大学建築学科卒として受け入れられている。このことをふまえて、築理会と理工学部建築学科同窓会との正式の接触がこの年(H.12)に始まった。平成12年(2000)開催の築理会懇親会に野田建築会(理工学部建築学科同窓会)の会長・副会長を招待している。この時の出席者は招待の先生方を含めて33名、会場は飯田橋外堀通りのレストラン「トリノ」であった。そして平成14年度版名簿から東京理科大学建築学科名簿(築理会・野田建築会)として発行されるようになる。この合同名簿はその後、平成16年版、平成18年版と発行された(平成20年版ではまた単独の築理会名簿となる)。

ところで、平成14年度の会費収入は173万であった。この収入額は今まで述べてきた中でもかなり低い額である。終身会員は

この年までで105名(1部8期まで)であった。平成15年、理窓会館2階会議室で行われた築理会総会・懇親会で会長は新しく森本仁氏(1部1期)に引き継がれた。総会では会則の一部を改訂し、会長経験者は“顧問”として残っていただき、必要な時に会の運営に対して助言を得られる制度を導入する。

森本会長の時にもいろいろ会の運営の改革をおこなった。その一つに企画総務委員会の設置がある。この企画総務委員会と常任幹事会がその後の実質的な会の運営母体となる。それと築理会名簿の整備、この時は主な企業対象に調査を行い1000名程度の確認はおこなった。また卒業生に対する築理会賞の設定、これは平成17年度から始まることになる。

平成17年度には会長に三松一宇氏(1部1期)を選出する。次の年(平成18年)は築理会35周年、それに理科大125周年の年でもある。記念の年でもあり総会・懇親会を盛り上げようと運営委員会を設置、準備にはいった。ただこの年の築理会会費収入は116万である。平成18年、建築学科も九段に移るが、この年の築理会総会・懇親会のテーマは「さようなら7号館・9号館」、1号館17階の大会議室で行われた。ライブもありOBの出版物コーナーもあり、出席者143名、近年にない盛り上がりを見せた。またこの年から学生(院生)の自主的企画、卒業制作作品集「りぼん」への支援もはじまる。久しぶりの築理会主催の見学会「新丸ビル」も行われた。

平成19年の総会・懇親会は九段校舎で行われた、そして会長も少し若返り石神一郎氏(1部5期)を選出した。この年は東京理科大学発祥の地・記念碑建立の建設に築理会が協力する。これは築理会の知名度を大きくあげた。

築理会で25年、私(大岩)も事務局長を卒業させてもらった。築理会も浮き沈みもあった。ほとんど停滞していて、とにかく名簿だけの発行の時もあった。名簿は前築理会の昭和46年(1971)から続いているのでこれは誇っていいだろう。ただ昨今、個人情報保護法で名簿発行を止めている団体も多い。今後議論すべき問題ではあるが、個人的には名簿は続けていくべきだとは思っている。築理会の組織も以前に比べれば随分しっかりしてきている。先にもすし述べたが、理科大の同窓会の団体として認知もされるようになった。もう築理会が消滅してしまうようなことはないだろうが、組織として安定してきたかといえば、まだ必ずしもそうではない。一つは会費収入の問題、本来ならば卒業生が増えるので会費収入は増えていくはずなのだが、本文章内でも何度も述べているが現状はそうではない。会費収入を増やすのは築理会創設以来悩んでいる問題だが、いまだにこの問題は続いている。それにもう一つは築理会と学科との関係、いままでは、つかず離れずのような関係であったが、本来は学科とも一体になっているべきだろう。そのためにはやはり卒業生が先生に、卒業生が1部建築学科の教授になった時、築理会も初めて学科の同窓会として、一人前になるのではないだろうか。

宣言

新建築士試験 完全対応

確かな実績に基づく
指導ノウハウで合格に導きます。

Catch your dream, get the future!

建築士・宅建

全国に広がる
合格ネットワーク 全国62拠点 約1,200教室

開講講座

1級・2級建築士

宅地建物取引主任者 1級建築施工管理技士

Web

最新試験情報が満載!
資料請求や受講申込も受付中!

いますぐ! ウェブ検索

当学院ホームページ

www.shikaku.co.jp

資料請求、お問合せはお気軽に

総合資格学院

TEL.03-3340-2811

長谷工のコンペに入選

岡崎 幹史 (1部 2007年卒)
大学院修士2年

<コンセプト>

「300人のための集合住宅」というテーマで、審査員は隈研吾さん、乾久美子さん、藤本壮介さんの三人でした。

実際に長谷工が集合住宅を建てている密度で都市に開かれた新しい集合住宅を提案せよ、という内容でしたが、自分たちは今の集合住宅の密度では都市に開いていくような提案は難しいのではないかと考え、隣地の公園を巻き込んで、集合住宅と公園とを織り混ぜた「森を回遊する極細集合住宅」を提案しました。木々の間を極細の住宅が分け入っていくような提案です。

森がこの集合住宅のエクステリアであり、かつインテリアになることで、住人の生活が季節に寄り添いつつ、住人に森を育てていこうという意識が生まれ、少しずつ周りの環境もよくなっていくのではないかと考えました。

<受賞の感想>

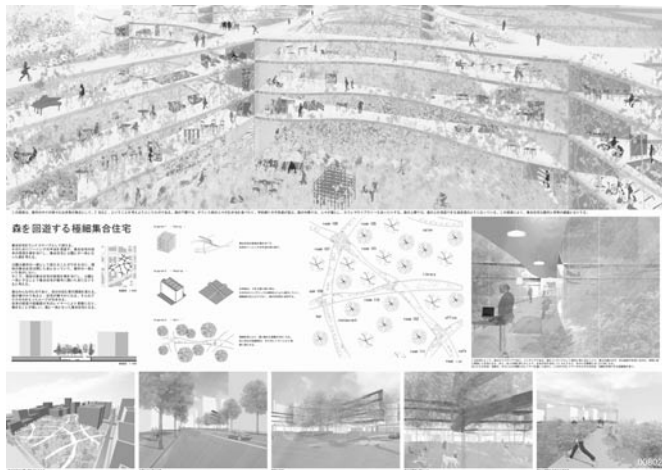
受賞の電話をいただいた時は、ガッツポーズをして喜びました。コンペは相対評価なので、今思えば敷地を広げて展開させたことがこのコンペでは功を奏したのかなと思います。

<研究室でのコンペ参加の雰囲気>

山名研究室はコンペに対する意識は高い方だと思います。後輩たちも幾つかのコンペに勝っています。

<賞金の使い道>

ノートパソコンとEl Croquisを買いました。



『視野を広く、繋がりを広げて』

出沼 翔太
建築学科4年

「僕たちは視野が狭い！」

そう痛感した2007年夏、転機が訪れました。当時学部3年生であった僕たちは、東京デザイナーズウィークの学生展に出展すべく、学年の枠を超えて理大建築学科の学生が中心となったチームを結成し、外の刺激



shomei exhibition 2007 作品集

的な空気を存分に感じることができました。又その間に、「真に建築的な作業とは、空気をつくること」をスローガンに『AiR』という建築団体が立ち上がり、『shomei exhibition 2007』(照明展)及び『PRESENTAiR』(プレゼンイベント)を催し、学年や学校を超えた交流、そして新たな空気づくりにも力を注いで来ました。また自らがアートディレクションをした照明展では、このイベントを後輩へのアーカイブとして残したいという思いから、その空間や時間の詰まった作品集を作成しました。



東京デザイナーズウィーク出展作品例 (switchair)

現在『AiR』は後輩が引き継ぎ、積極的に活動を広めています。負けてはられないという思いから私自身は他大の学生らと『5er(ファイバー)』を結成し、新たなプレゼンイベントを催しております。今や理大建築学科は種々の壁を乗り越え、互いに切磋琢磨し合える素晴らしい環境になったと実感する日々です。

いずれの活動も、素晴らしい先輩や先生方の多大なる御協力の賜物であることは御周知の上で、ここに御礼を申し上げます。

website

AiR: <http://air.mongolian.jp/>

5er: <http://5-er.net/>

地図に残る仕事。



大成建設

本社 〒163-0606 東京都新宿区西新宿1-25-1
TEL (03)-3348-1111 <http://www.taisei.co.jp/>

新任教員紹介

今本 啓一 (1部 1990年卒)

工学部第二部建築学科 准教授 (工学博士)

本年4月に工学部第二部建築学科に着任いたしました。専門は材料・施工で、特にコンクリートなどの構造材料を研究の対象としてきました。最近取り組んでいる具体的な研究テーマは、産業副産物や建築廃材を起源とした、セメントに代わる新しい構造材料の開発や、非破壊による鉄筋コンクリート(RC)構造物の寿命予測、微視的構造に基づくRC部材のひび割れ制御に関する研究などです。いずれも学協会の研究グループとの関わりをもって、国際的な視点で研究に取り組むように心掛けています。



講義では、建築材料の成り立ちから施工に関する実践的な内容まで盛り込むように努めています。これらを通して、学生に建築物を構成する最小単位としての「材料」に興味をもってもらえたらと思っています。

講義では、建築材料の成り立ちから施工に関する実践的な内容まで盛り込むように努めています。これらを通して、学生に建築物を構成する最小単位としての「材料」に興味をもってもらえたらと思っています。

大学時代の思い出は必ずしも講義の中だけにはないかも知れませんが、卒業研究や演習課題などを通して間接的に学んだ「考える力」はやはり貴重だと思います。そういった思い出を少しでも多く残すことができるような教育ができればと思っています。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

- 「略歴」
- 1990年 東京理科大学 工学部第一部 建築学科卒業
 - 1992年 東京理科大学大学院工学研究科 建築学専攻修了
 - 1992年 東急建設(株) 施工部建築部大阪支店
 - 1993年 同上 技術研究所 建築材料研究室
 - 2001年 足利工業大学工学部建築学科
 - 2008年 東京理科大学工学部 着任

変わる建築学科の先生方

工学部建築学科の先生方は、退官された先生方が多く、大きく変わりつつある。1部計画系では昨年度(H19年度)から宇野求教授が来られているが、宇野先生は鈴木信宏教授の後任であり、鈴木先生は、1973年から2007年まで34年間研究室を持たれていた。鈴木先生は水環境などが専門であったが、設計製図でも多くの卒業生はお世話になっただろう。また同じ計画系で1999年から理科大に来られ、同潤会など集合住宅の研究をされていた大月敏雄助教授は今年度、東京大学に移られた。構造系では、松崎育弘教授が退官をむかえられた。1980年から研究室をもたれていて、鉄筋コンクリートが専門、多くの学位取得(博士)者もだしている。又同じ、構造系で1999年から来られていた、地震工学・建築震動学が専門の篠崎祐三教授も退官された。なお、松崎先生、篠崎先生、大月先生は非常勤では今年度も理科大で講義されている。

2部では2部創設以来研究室を持たれていた清水昭之教授が退官された。清水先生は建築材料、コンクリートが専門。2部の卒業生は長く教務幹事をさらわれていた清水先生にはお

世話になっただろう。清水先生の後任には新任紹介にもあるように1部OBでもある今本啓一先生が今年度から来られている。又、1部の卒業生のほとんどがお世話になった井口洋佑先生、平野道勝先生は、非常勤での授業も昨年度で終了された。2部の計画系の中心的存在であった沖塩荘一郎先生も同様であり、昨年度で非常勤も終えられた。建築学科が創設されて46年、初期からの先生方はほとんど去られ、これからは新しい先生方で、又新しい歴史が刻まれていくことになる。なお、井口先生、平野先生、沖塩先生、鈴木先生、それに以前に退官されている武井先生は理科大の名誉教授になられている。(大岩記)

建築ときどき縁築

大槻 尚美 (1部 2007年卒)

大和ハウス工業越谷支店集合設計課

社会人になって1年目の冬、会社からある話が舞い込んできました。街の人達を集めてチャリティーコンサートを開くというもので、その集まったお金をカンボジアの井戸を掘るために寄付するというものでした。たまたま今の仕事場に配属されて出会うことの出来た街の人々。ある目標のために初めて出会い一つのものを作り上げるということ。チャリティーコンサートというものを作り上げると同時に人の縁も広がり深まっていると思った出来事でした。

別の機会に、街の人々が街に植樹する機会がありました。もちろんボランティアであったので、私は数百人が集まって数百本を植える程度のものでしようと思っていました。ところが、いざ当日になると五千人もの人々が八万本もの木を植えるという大きなイベントだったので。街の人が街を作っていると感じた日でした。夏の暑い日、いつの間にか協力して木を植えていたのです。木を媒介に何か他のものも築かれていると感じた日でした。

目に見えるものを作り上げていく建築と目に見えない大切な何かを作り上げていく人の縁。何か近いものを感じながら、そのどちらにも魅力を感じています。

「編集後記」

東京に台風が迫る9月19日、九段校舎に新旧4人のOBにお集まりいただきました。1部1期中の村さんから、43期の野村さんまで、40年を超える建築学科の歴史、そして卒業生のつながりを感じさせる有意義なクロス対談だったと思います。安井建築設計事務所の経営者という多忙を極める身ながら、築理会のためならと、コーディネーターを引き受け、大阪から駆けつけてくださった佐野さん。大変ありがとうございました。(安達 功 adachi@nikkeibp.co.jp)

築理会報 2008 秋号
2008年10月発行 Vol.42

発行所 : 東京都新宿区神楽坂1-3
東京理科大学工学部I・II部建築学科
築理会事務局 03-3260-4271 (内6674)
03-5213-0976 (FAX)

編集長 : 安達 功
編集委員 : 石神一郎、大岩昭之、藤森正純、広谷純弘、森清、伊藤学、渋川克也、山名善之、平賀一浩、菊地宏、東有紀、大槻尚美
印刷発送 : グローバルシステム株式会社